



List All Images

Share

Tweet



1/35th SCALE

- ★ DETAILED STATIC DISPLAY MODEL ★ PHOTO-ETCHED PARTS DEPICT DETAILS SUCH AS MUFFLER COVER, JERRY CAN RACK, AND FENDER STAYS ★ REALISTIC LINK TYPE ASSEMBLY TRACKS ★ METAL GUN BARREL SEPARATELY AVAILABLE
- ★ 2 TYPES OF MARKINGS INCLUDED
- ★ READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT
- ★ DETAILED SCALE MODEL FOR HOBBYISTS AGE 14 AND ABOVE. THIS IS NOT A TOY MODEL. MAY VARY FROM IMAGE ON BOX.
- ★ CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED

# ITALIAN HEAVY P4

VEHICLE PARTS /



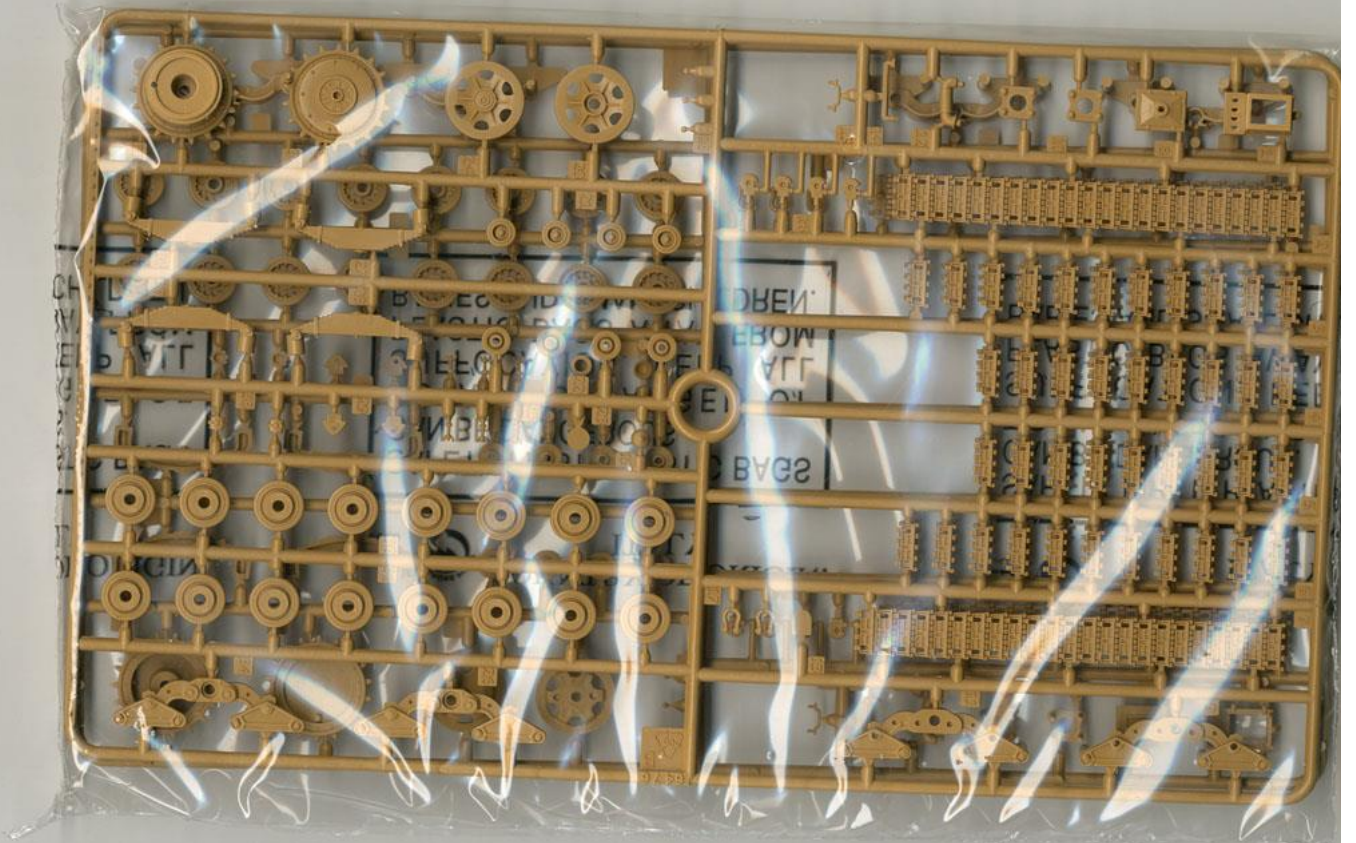
PHOTOGRAPHIC REFERENCE MANUAL & PHOTO-ETCHED PARTS INCLUDED  
写真資料集(1冊)とエッチングパーツ付き

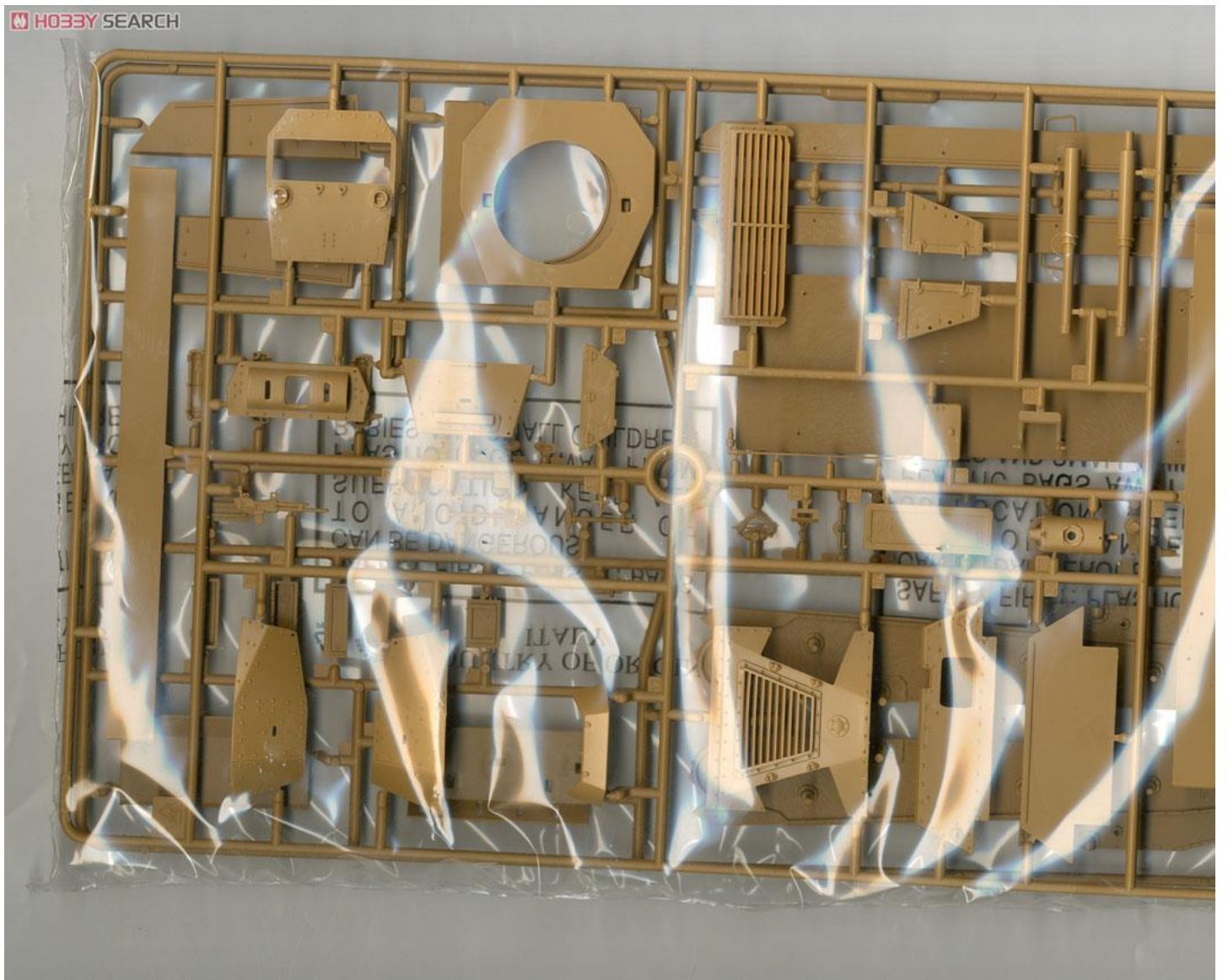
イタリ  
★標斜装甲を備えたリベット  
★エッチングパーツ

Limited Edition

Hobby Search









# Carro Armato P40

photographic reference manual



## contents

brief history

3

walkaround

14

camouflage

36



1943年9月のイタリア降伏後、ドイツ軍は接収したイタリア製兵器の中から優秀な車輛や火器を選別、ドイツ軍部隊への配備を進めました。イタリア軍初の重戦車として開発されたP40もその一つです。75mm砲搭載の新型戦車としてイタリア軍がP40の開発を決定したのは1940年初頭のことでした。1941年10月には試作1号車が完成し、1942年5月には500輛の生産計画が立てられました。度重なる仕様変更と搭載を予定していたディーゼルエンジンの技術的問題が解消できず、イタリア降伏までに完成したのは21輛で、イタリア軍がP40を使用することはありませんでした。P40は主砲として34口径75mm砲を搭載、足回りは板バネ式のサスペンションを備え、車体はリベット接合という手堅い設計でしたが、車体前面や側面にはイタリア戦車として初めて傾斜装甲が取り入れられました。またエンジンはディーゼルエンジンに代えて420馬力のフィアット製342型V8液冷ガソリンエンジンを搭載、路上での最高速度は40km/hでした。イタリアの降伏後、P40の攻

撃力に着目したドイツ軍は完成していたP40の接収と生産の継続を指示、南部戦車訓練大隊や第10および第15警察警察戦車中隊、そして武装親衛隊の第24戦闘山岳旅団カルストエーガーなどにP40を配備しました。南部戦車訓練大隊は捕獲したイタリア製戦車の運用訓練を目的とした部隊で、5輛のP40を含む様々なイタリア製戦車と装甲車を保有。第10警察戦車中隊はロシア戦線での作戦行動の後、1944年末に北イタリアへ移動してP40を受領、同じくP40を装備する第15警察戦車中隊と共に対パルチザン作戦を続けました。第24戦闘山岳旅団は1944年夏に編成されてアドリア海沿岸地区に展開、オーストリアに向けて撤退中の1945年3月にイギリス第6機甲師団と交戦し、数両のP40を失っています。ドイツ軍によって使用されたP40は合計約100両で、その中の約40輛はエンジンなどが搭載されておらず、固定砲台としてグスタフラインやゴシックラインなどの防衛拠点に配置、イタリア半島を北上する連合軍に対して粘り強い防戦を続けました。

## 《Photographic reference manual内解説の和訳》

短命に終わったP40 (P3~8)

P40戦車は開発が長期に渡ったためイタリア陸軍への配備は間に合わず、もっぱらドイツ軍によって終戦までイタリア戦線で使用されることとなった。101輛生産されたP40のうち40輛には駆動装置が搭載されておらず、これらはドイツ軍がイタリア戦線で構築したいくつかの防衛ラインで固定砲台として利用された。

第二次大戦中、イタリアによる“重戦車”（少なくとも当時のイタリア軍の基準による分類では）の開発は遅々として進まなかったが、捕獲したロシア軍T34戦車の調査結果はイタリア戦車の設計に著しい改良をもたらした。P40重戦車の最終試作車は1942年7月に完成し、続く10月にはイタリア陸軍が量産を承認。予定生産数は500輛と若干数の派生型だった。

1943年9月のイタリア降伏の後、ドイツが既に完成済みの車輜と生産途中の車輜を受け継ぎ、生産の継続を指示した。完全な状態とエンジンおよび武装のない状態の合計2輛のP40がドイツに送られ、ドイツ製のエンジンと24口径75mm砲の搭載も検討されたが実現することはなかった。

ドイツは75輛の完全状態のP40、そして同じく75輛のエンジンおよびトランスミッションのないP40の生産を指示し、1943年9月から1945年1月までに101輛のP40が完成、そのうちの40輛には駆動装置が装備されず防衛陣地のゴシックライン、そして北イタリア戦線各地に固定砲台として設置された。

最初の5輛は訓練部隊の南方戦車訓練大隊に配備。続いてドイツ軍司令部はP40の武装親衛隊と警察部隊への配備を決定した。P40を受領した第10と第15警察戦車中隊は北イタリアのヴェローナ、さらにノヴァラ地区で戦闘配備についた。第3のP40配備部隊となった武装親衛隊の第24戦闘山岳旅団“カルストイェーガー”（後に師団へ昇格）は、フリウリ地方でイタリアとユーゴスラビアのバルチザン、そして後

にイギリス軍と交戦することとなる。

第二次大戦後、僅かな数のP40がイタリア軍の手に残ったが、米英からの物資と兵器が入手可能となったため、これらP40を部隊配備する意味は失われた。2輛のP40が生き残り、1輛はローマの戦闘車輛歴史博物館に、もう1輛はレッツェの騎兵学校に展示されている。

## 仕様詳細 (P10~11)

P40の車体は前半部と後半部に分けられ、前半部にはステアリングとブレーキ装置および2名の乗員、後半部にはエンジンとその他の補機類、燃料タンクが収められている。砲塔には残りの2名の乗員と34口径75mm砲、フレダ38型8mm同軸機銃が搭載されていた。同軸機銃は取り外し可能で、外部の対空機銃架に載せることもできた。車体は内部のフレームにボルトとリベットで取り付けられる装甲板で構成。走行装置はM戦車（中戦車）シリーズの流れを継ぐもので、前部の駆動輪と後部の遊動輪、そして2個のボギーに取り付けられる8個のゴムタイヤ付き転輪と4個のリターンローラーで構成されている。キャタピラは片側84個コマ。エンジンはP40専用が開発されたV12ディーゼルエンジンの予定だった。

乗員（コマンダー兼砲手、装填手、ドライバー、無線士の4名）は前面装甲板にあるハッチと砲塔天面の大型スライドハッチから乗り降りした。戦闘時の視界はドライバー用のビジョンブロックと砲塔の2基の回転式ペリスコープによって確保され、さらに砲手には主砲と同軸の照準用望遠鏡が備えられていた。車体2ヶ所の開閉式ビジョンポートと砲塔3ヶ所の小型ビジョンポートにより周囲の監視が可能。これらのビジョンポートからは小火器を発射することもできた。車体左側には短距離用無線機RF1CAの折りたたみ式アンテナを装備。発煙弾発射装置と発煙弾の収納箱は車体後部に備えられている。戦闘重量は26,000kg、路上での最高速度は40km/hだった。

## PAINTS REQUIRED



塗装指示のマークです。タミヤカラーのカラーナンバーで指示しました。

This mark denotes numbers for Tamiya Paint colors.

X-10 ●ガンメタル / Gun metal / Metall-Grau / Gris acier

X-11 ●クロームシルバー / Chrome silver / Chrom-Silber / Aluminium chromé

XF-1 ●フラットブラック / Flat black / Matt Schwarz / Noir mat

XF-56 ●メタリックグレイ / Metallic grey / Grau-Metallic / Gris métallisé

XF-58 ●オリーブグリーン / Olive green / Olivgrün / Vert olive foncé

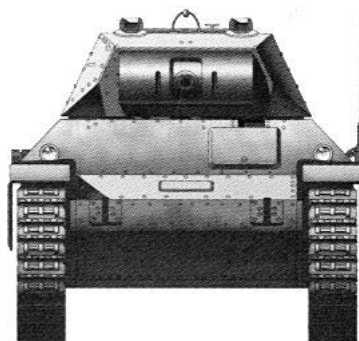
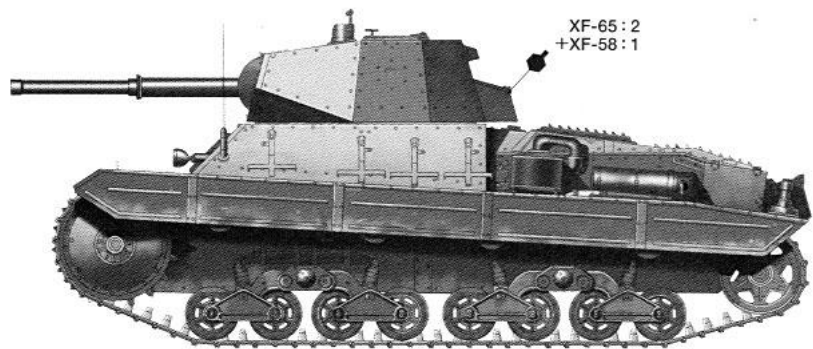
XF-59 ●デザートイエロー / Desert yellow / Sandgelb / Jaune désert

XF-60 ●ダークイエロー / Dark yellow / Dunkelgelb / Jaune foncé

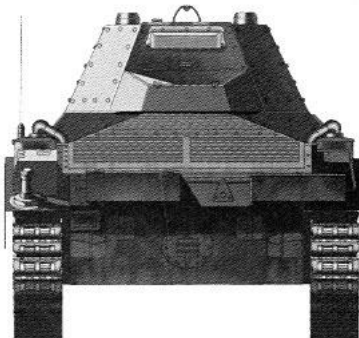
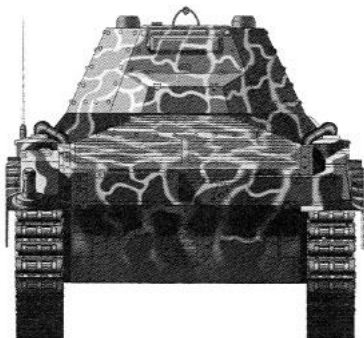
XF-64 ●レッドブラウン / Red brown / Rotbraun / Rouge brun

XF-65 ●フィールドグレイ / Field grey / Feldgrau / Gris campagne

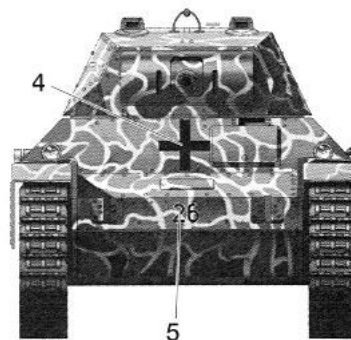
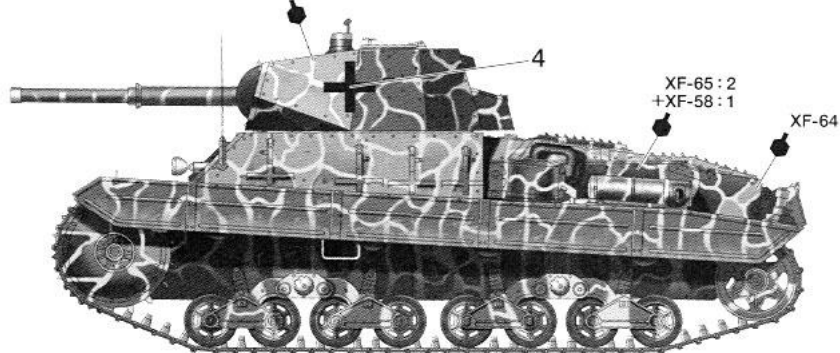
**A** アンサルド社工場ジェノバ 1943年末 (写真資料P36参照)  
 Ansaldo works, Genoa, End of 1943 (Refer to P.36 of the Photographic Reference Manual.)



**B** ドイツ軍第15警察戦車中隊  
 北イタリア・ノヴァラ 1945年4月  
 (写真資料P37参照)  
 15. Polizei-Panzer-Kompanie, Novara,  
 April 1945  
 (Refer to P.37 of the Photographic Reference Manual.)



XF-60:2  
 +XF-59:1



- C** 武装親衛隊 第24戦闘山岳師団 戦車中隊 第1小隊 北イタリア・フリウリ地方 1945年4月  
(マーキングは写真資料集P38をご参照ください。迷彩パターンは **B** と同じです)  
Panzer-Kompanie, 24. Waffen-Gebirgs(Karstjäger)Division der SS, 1st Platoon, Friuli region, April 1945  
(Refer to P.36 of the Photographic Reference Manual for markings. Camouflage pattern is the same as Marking Option B.)
- D** ドイツ軍南部戦車訓練大隊 P40小隊 北イタリア・ロニゴ 1944年夏  
(迷彩パターンは **B** と同じです。車輻番号などはありません)  
P40 Platoon, Panzer-Ausbildungs-Abteilung Süd, Lonigo, Summer 1944  
(Camouflage pattern is the same as Marking Option B. No vehicle numbers were applied.)

## PAINTING

### 《P40の塗装》

ドイツ軍が使用したP40はグレイグリーンの基本塗装にレッドブラウンの雲状迷彩が施され、さらにその境目をイエローサンドの細い帯で縁取りする、大戦末期のフィアット・アンサルド製車輻に特有の迷彩が施されていました。ほとんどのP40は部隊マークなどは付けられず、国籍マークと車輻ナンバーのみがシンプルに描き込まれていましたが、これらのマーキングが全く記入されていない車輻もあったようです。また生産工場ではグレイグリーン単一色の車輻も見られました。

### 《瞬間接着剤について》

★通常は塗装する前に使用します。その際、接着面の油分を十分に取ってください。塗装後に接着する場合は接着面の塗料を落してから使用します。この時、塗料が残っていると接着力が極端に低下するので注意しましょう。  
★接着剤をつけすぎると接着力が落ちるだけでなく、白化しやすくなるので注意してください。  
★劣化した接着剤は使用しないでください。不要な部品で試してから使用してください。  
★使用する際は瞬間接着剤の取扱説明をよく読んでからご使用ください。  
**Instant cement**  
★Remove any paint or oil from cementing surface

装備品など細部の塗装は組立図中にタミヤカラーの色番号で指示してあります。

### 《P40 Heavy Tank Painting Guide》

P40 tanks that were used by the Germans featured a Gray Green base color and a distinctive Red Brown "cloud" camouflage pattern with narrow Yellow Sand borders. Some tanks at the factory were seen in overall Gray Green. Most only had national insignia and vehicle numbers and no unit markings, although some did not have any markings at all. Refer to the instruction manual for information on painting details.

### 《Schwerer Panzer P40 Lackieranleitung》

Von den Deutschen genutzte P40 Panzer hatten eine graugrüne Grundierung und ein markantes, rotbraunes "Wolken-" Tarnmuster mit schmaler

before affixing parts.

★Use only a small amount of cement. Too much cement will make joints turn white and lose adhesion.  
★Do not use old cement. Test cement first with unnecessary parts such as sprues before use.  
★Carefully read instructions on use before cementing.  
**Sekundenkleber**  
★Entfernen Sie alle Farbe und Ölflecke von der Kleboberfläche bevor sie Teile ankleben.  
★Verwenden Sie nur geringe Mengen Klebstoff. Bei zuviel Klebstoff kann sich die Verbindung verschieben und die Haftkraft verloren gehen.  
★Verwenden Sie keinen alten Klebstoff. Testen Sie

Umrandung in Sandgelb. Einige Panzer kamen vollständig in Graugrün aus dem Werk. Die meisten trugen nur Nationalitätszeichen und Fahrzeugnummern ohne Markierungen der Einheit, einige hatten sogar überhaupt keine Markierungen. Beachten Sie die Bauanleitung zur Information über die Detailbemalung.

### 《Peinture du Char Lourd P40》

Les chars P40 utilisés par les forces allemandes avaient une teinte de base Gris Vert et un camouflage caractéristique "en nuages" Rouge Brun avec de fines délimitations Sable Jaune. Certains engins vus en usine étaient entièrement Gris Vert. La plupart portaient des marques de nationalité et des numéros de véhicules mais pas de marquages d'unité. Certains ne portaient aucun marquage du tout. Se reporter à la notice de montage pour la peinture des détails.

den Kleber vor der Anwendung zuerst mit nicht benötigten Teilen etwa vom Spritzling.

★Vor dem Kleben die Gebrauchsanleitung sorgfältig lesen.  
**Colle rapide**  
★Enlever les traces de peinture ou de graisse des surfaces de contact avant de coller les pièces.  
★N'utiliser qu'une petite quantité de colle. Un excès peut blanchir les lignes de joint et limiter l'adhésion.  
★Ne pas utiliser une colle périmée. Tester la colle sur des pièces inutilisées comme des morceaux de grappes avant utilisation effective.  
★Lire soigneusement les instructions avant de coller.

## APPLYING DECALS

### 《スライドマークのはり方》

- ① はりたいマークをハサミで切り抜きます。
- ② マークをぬるま湯に10秒ほどひたしてからタオル等の布の上に置きます。
- ③ 台紙のはしを手で持ち、はるところにマークをスライドさせてモデルに移してください。
- ④ 指に少し水をつけてマークをぬらしながら、正しい位置にずらしします。
- ⑤ やわらかな布でマークの内側の気泡を押し出しながら、押しつけるようにして水分をとります。

### DECAL APPLICATION

- ① Cut off decal from sheet.

- ② Dip the decal in tepid water for about 10 sec. and place on a clean cloth.
- ③ Hold the backing sheet edge and slide decal onto the model.
- ④ Move decal into position by wetting decal with finger.
- ⑤ Press decal down gently with a soft cloth until excess water and air bubbles are gone.

### ANBRINGUNG DES ABZIEHBILDES

- ① Abziehbild vom Blatt ausschneiden.
- ② Das Abziehbild ungefähr 10 Sek. in lauwarmes Wasser tauchen, dann auf sauberen Stoff legen.
- ③ Die Kante der Unterlage halten und das Abziehbild auf das Modell schieben.
- ④ Das Abziehbild an die richtige Stelle schieben und dabei mit dem Finger das

Abziehbild naßmachen.

- ⑤ Das Abziehbild leicht mit einem weichen Tuch andrücken, bis überschüssiges Wasser und Luftblasen entfernt sind.

### APPLICATION DES DECALCOMANIES

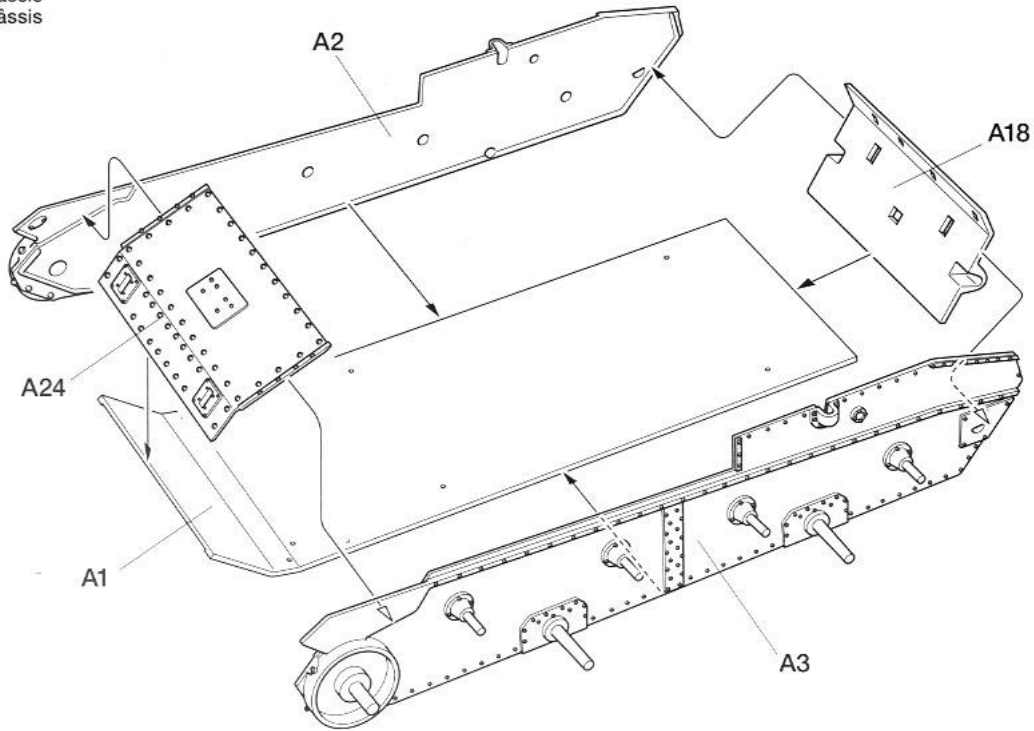
- ① Découpez la décalcomanie de sa feuille.
- ② Plongez la décalcomanie dans de l'eau tiède pendant 10 secondes environ et poser sur un linge propre.
- ③ Retenez la feuille de protection par le côté et glissez la décalcomanie sur le modèle réduit.
- ④ Placez la décalcomanie à l'endroit voulu en la mouillant avec un de vos doigts.
- ⑤ Pressez doucement la décalcomanie avec un tissu doux jusqu'à ce que l'eau en excès et les bulles aient disparu.



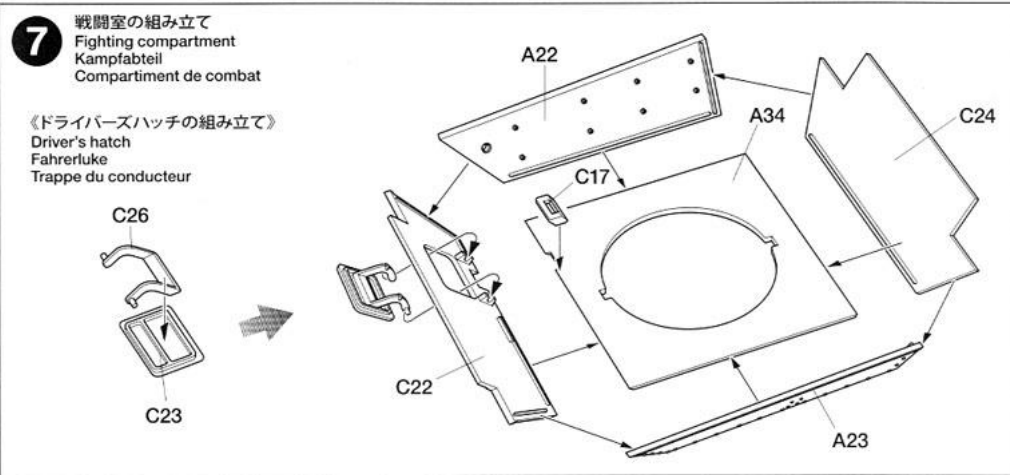
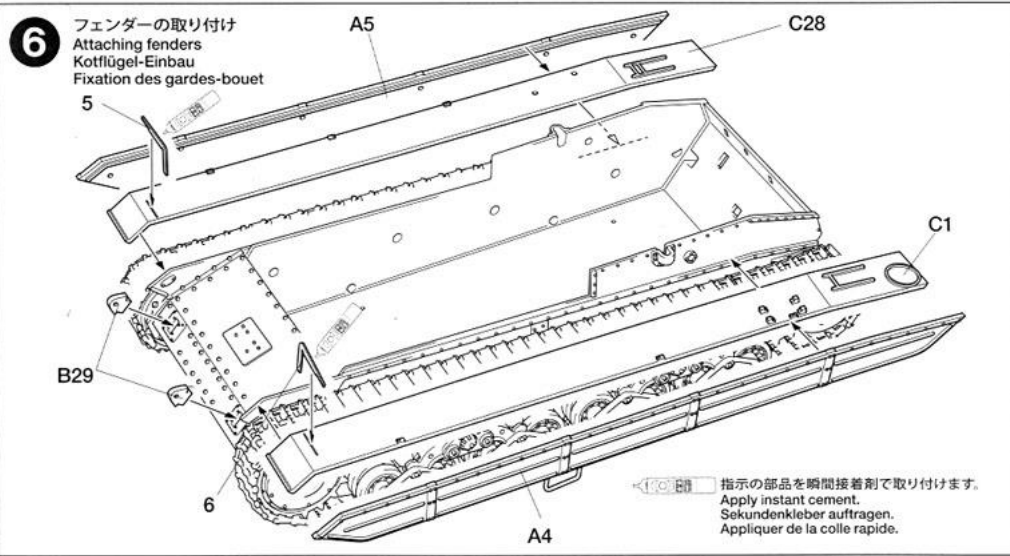
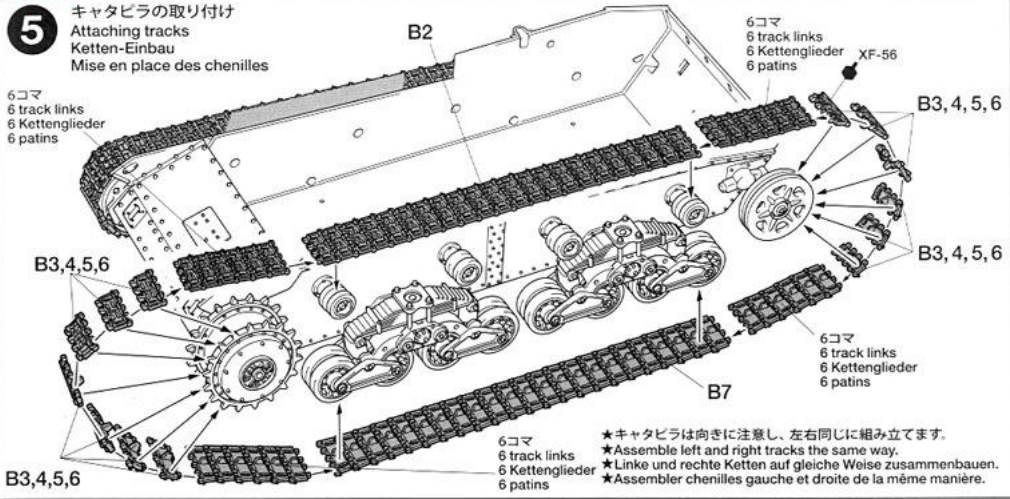


- 組立説明図の中で塗装指示のない部品は車体色で塗装します。
- When no color is specified, paint parts with hull color.
- Wenn keine Farbe angegeben ist, Teile mit Rumpf-Farbe bemalen.
- Lorsqu'aucune teinte n'est spécifiée, peindre les pièces dans la couleur de la caisse.

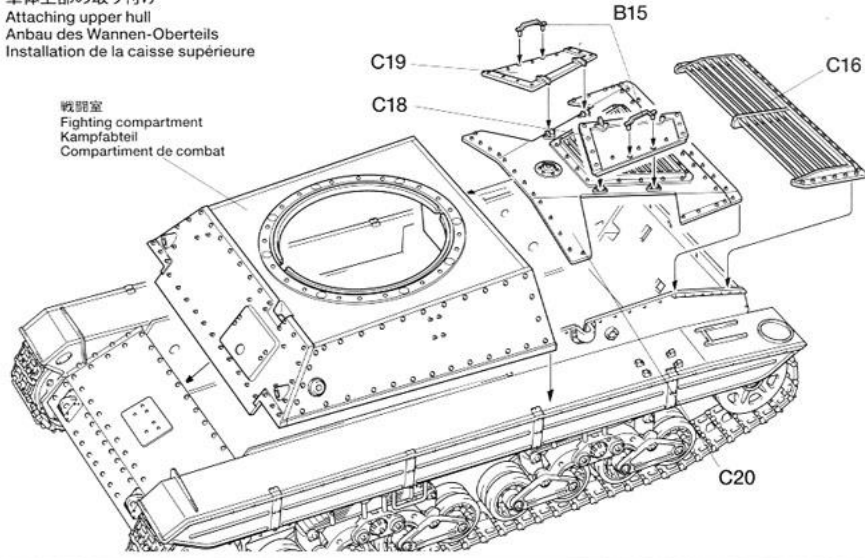
**1** シャーシの組み立て  
Chassis  
Châssis



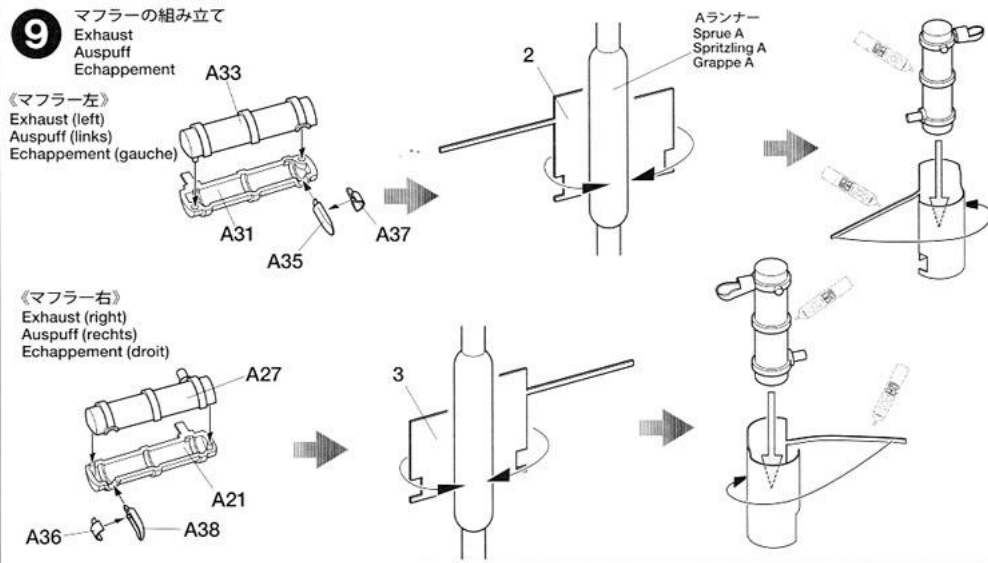




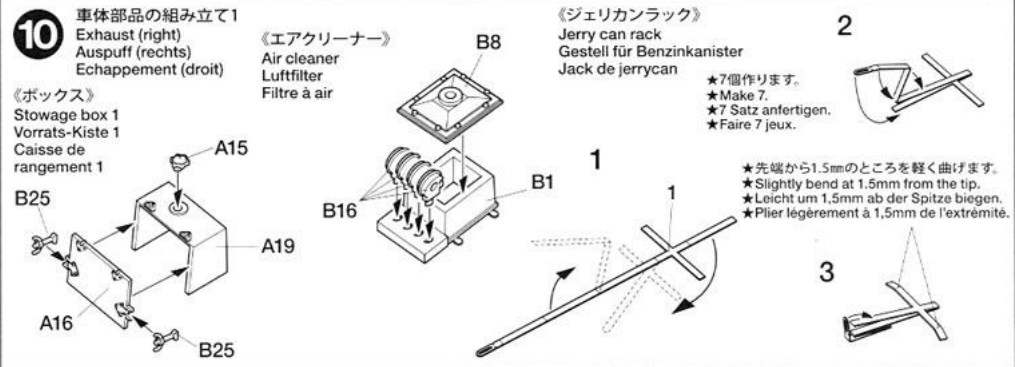
**8** 車体上部の取り付け  
Attaching upper hull  
Anbau des Wannen-Oberteils  
Installation de la caisse supérieure



**9** マフラーの組み立て  
Exhaust  
Auspuff  
Echappement

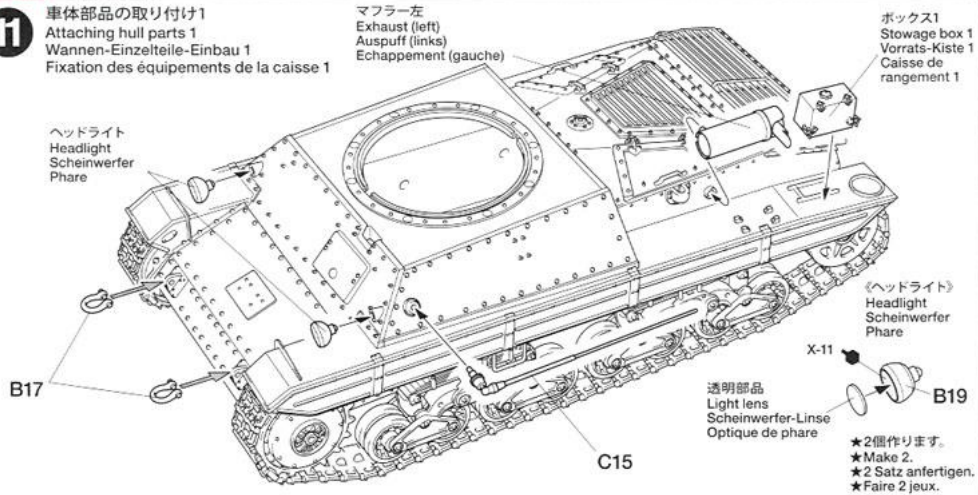


**10** 車体部品の組み立て1  
Exhaust (right)  
Auspuff (rechts)  
Echappement (droit)



11

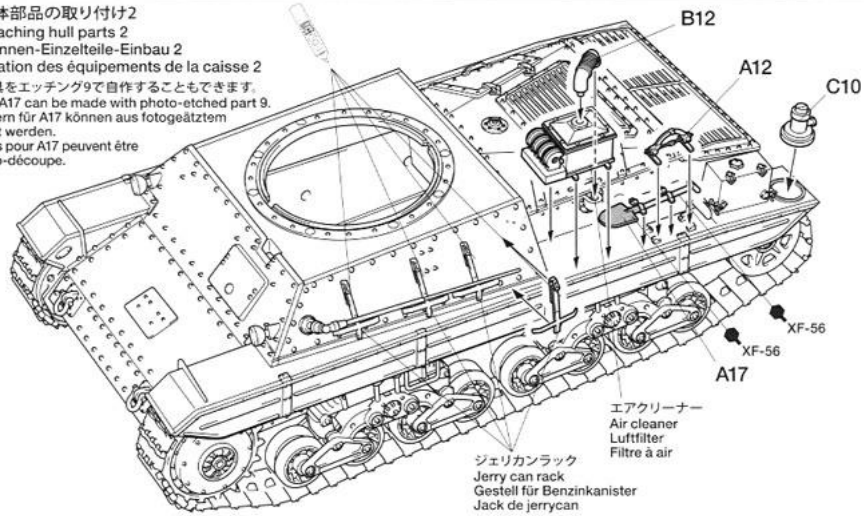
車体部品の取り付け1  
Attaching hull parts 1  
Wannen-Einzelteile-Einbau 1  
Fixation des équipements de la caisse 1



12

車体部品の取り付け2  
Attaching hull parts 2  
Wannen-Einzelteile-Einbau 2  
Fixation des équipements de la caisse 2

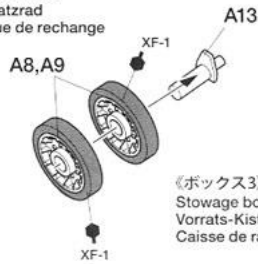
★A17の留め具をエッチング9で自作することもできます。  
★Clamps for A17 can be made with photo-etched part 9.  
★Die Klammern für A17 können aus fotoeätztem Teil 9 gefertigt werden.  
★Les fixations pour A17 peuvent être faites en photo-découpe.



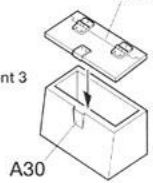
13

車体部品の組み立て2  
Hull parts 2  
Wannen-Einzelteile 2  
Equipements de la caisse 2

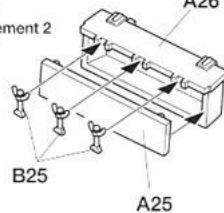
《スペアホイール》  
Spare wheel  
Ersatzrad  
Roue de rechange



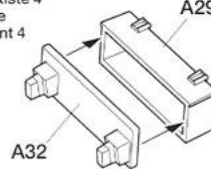
《ボックス3》  
Stowage box 3  
Vorrats-Kiste 3  
Caisse de rangement 3



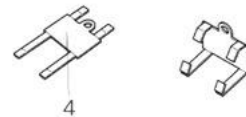
《ボックス2》  
Stowage box 2  
Vorrats-Kiste 2  
Caisse de rangement 2

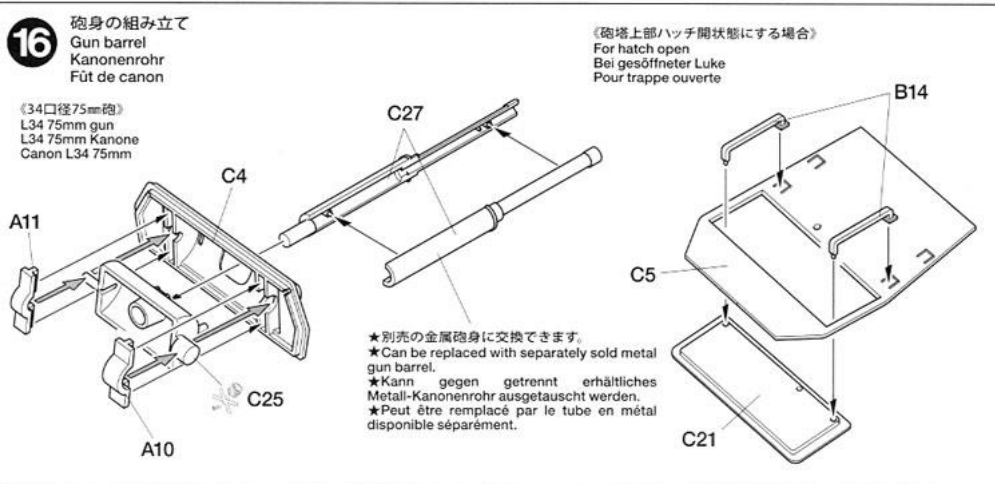
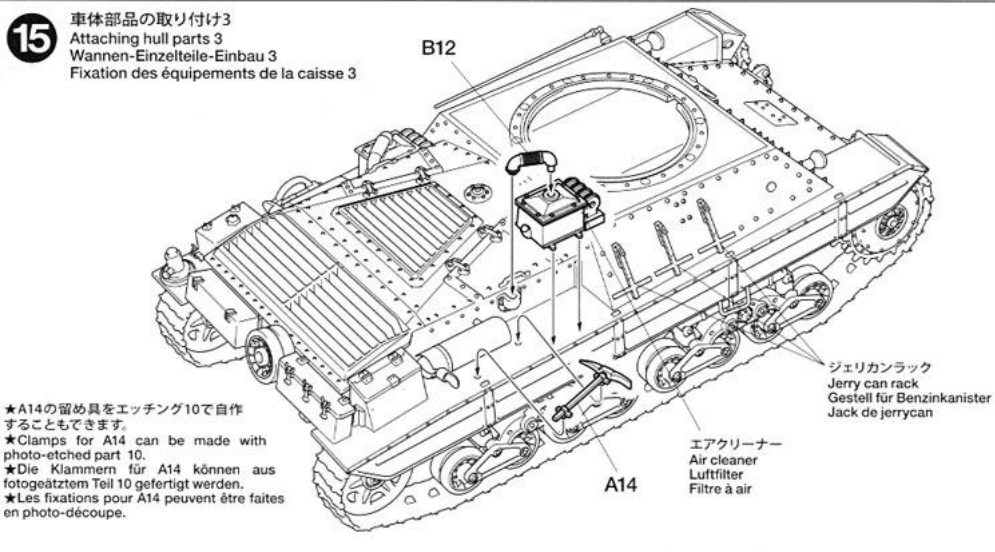
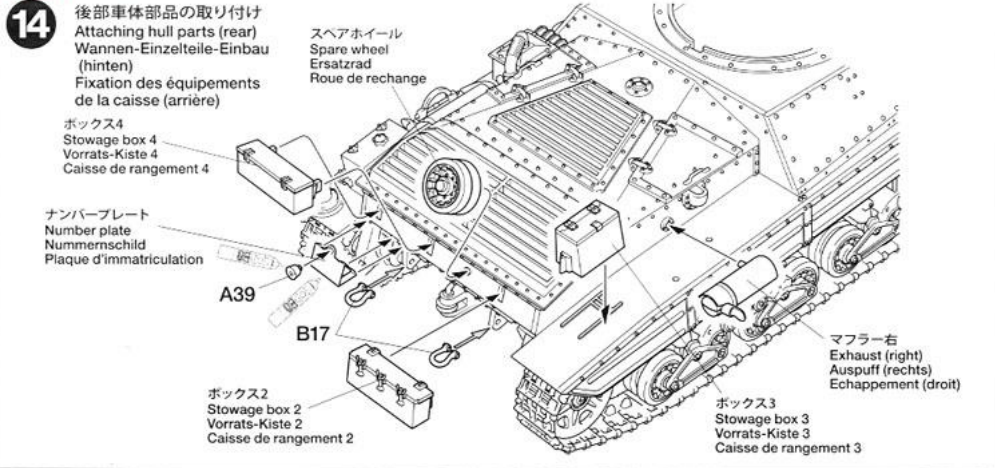


《ボックス4》  
Stowage box 4  
Vorrats-Kiste 4  
Caisse de rangement 4



《ナンバープレート》  
Number plate  
Nummernschild  
Plaque d'immatriculation





17

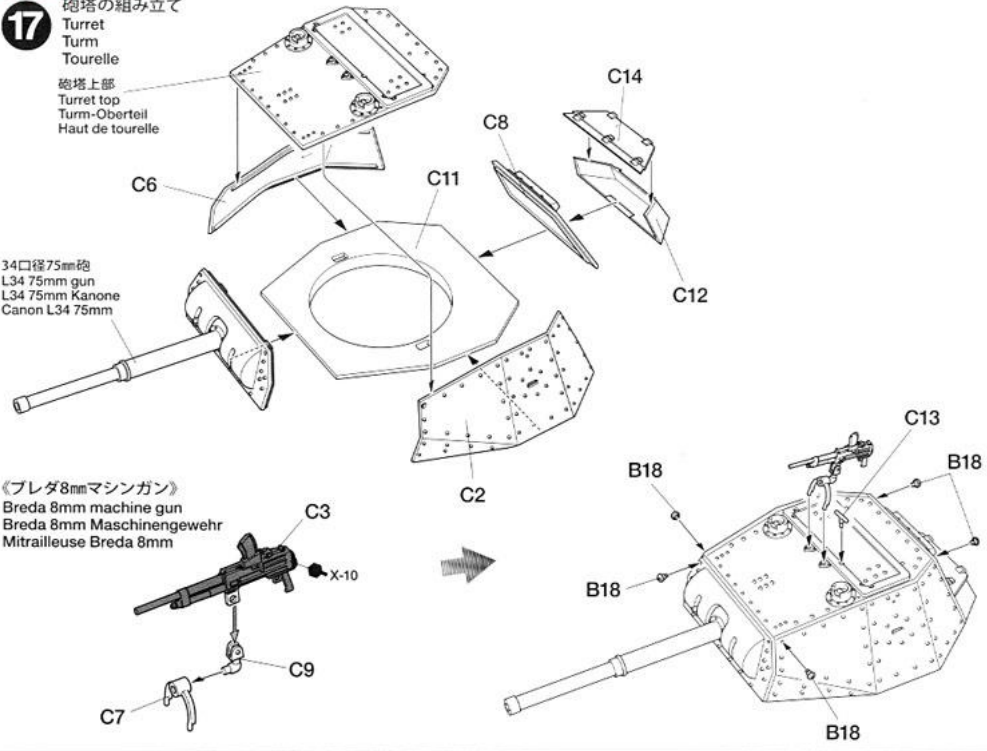
砲塔の組み立て

Turret  
Turm  
Tourelle

砲塔上部  
Turret top  
Turm-Oberteil  
Haut de tourelle

34口径75mm砲  
L34 75mm gun  
L34 75mm Kanone  
Canon L34 75mm

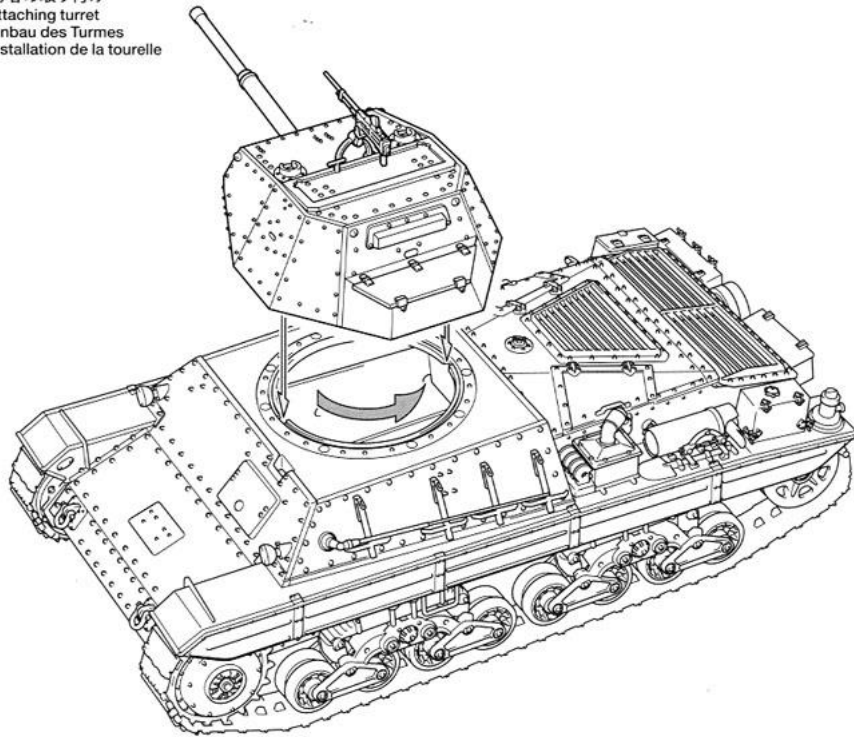
《ブレダ8mmマシンガン》  
Breda 8mm machine gun  
Breda 8mm Maschinengewehr  
Mitrailleuse Breda 8mm



18

砲塔の取り付け

Attaching turret  
Einbau des Turmes  
Installation de la tourelle



After the Italian Armistice in September 1943, the German military commandeered Italian weapons and pressed them into service. Among these was the P40, the first Italian heavy tank. Development of the P40 began in early 1940, and the prototype was completed in October 1941. It featured an L34 75mm gun, leaf spring suspension, riveted hull construction with sloped front and side armor, and a 40km/h on-road top speed thanks to its 420hp Fiat SPA 342 liquid-cooled V8 gasoline engine, which was fitted in place of a planned diesel engine. 500 were to be produced from May 1942, only 21 were finished by the armistice and it did not serve in Italian colors. The Germans ordered production to continue after the armistice and appropriated completed tanks to the Southern Tank Training Battalion, 10th and

Nach dem Italienischen Waffenstillstand im September 1943, requirierte das Deutsche Heer Italienische Waffen und verpflichteten sie zum Dienst. Darunter war der P40, der erste Schwere Panzer Italiens. Die Entwicklung des P40 begann Anfang 1940, der Prototyp war im Oktober 1941 fertig. Er hatte eine L34 75m Kanone, Blattfeder-Aufhängung, genieteten Rumpf mit geneigter Stirn- und Seitenpanzerung und damit dank seines 420PS Fiat SPA 342 flüssigkeitsgekühlten V8 Benzin-Motors, der statt des geplanten Dieselmotors eingebaut war, eine Höchstgeschwindigkeit auf der Straße von 40km/h. Ab Mai 1942 sollten 500 Stück gebaut werden, beim Waffenstillstand waren aber nur 21 fertig gestellt und sie dienten nicht in den Italienischen Farben. Nach dem Waffenstillstand befahlen die Deutschen eine Fortsetzung der Produktion und verwendeten fertige Panzer im Südlichen Panzer-

Après l'armistice avec l'Italie en septembre 1943, les forces allemandes récupérèrent des matériels italiens et les utilisèrent au combat, dont le P40, le premier char lourd italien. Le développement du P40 commença début 1940 et le prototype fut terminé en octobre 1941. Sa caisse était constituée de panneaux rivetés, inclinés sur le devant et les flancs et il était équipé d'un canon L34 75mm et d'une suspension à ressorts à lames. Son moteur V8 à essence Fiat SPA 342 refroidi par liquide développant 420cv, installé à la place du moteur diesel prévu à l'origine, lui permettait d'atteindre 40km/h sur route. 500 devaient être produits à partir de mai 1942 mais seulement 21 étaient terminés à la signature de l'armistice et ils ne servirent pas sous les couleurs italiennes. Les allemands ordonnèrent la poursuite de la production et attribuèrent les

15th Police Panzer Companies, and the 24th Waffen-SS Gebirgs-Division (Karstjäger). The Southern Tank Training Battalion trained units to use captured Italian tanks and had five P40s in their inventory. The 10th Police Panzer Company served in Russia before redeployment to northern Italy in late 1944 for anti-partisan duties with the 15th Police Panzer Company. Formed in summer of 1944, the 24th Gebirgs-Division was deployed in Trieste and Udine along the Adriatic coast. While retreating towards Austria in March 1945, they lost several P40 tanks to Sherman tanks of the British 6th Armored Division. About 100 P40s were used by the German military, of which about 40 were engine-less and used as static emplacements at defensive positions such as the Gustav and Gothic Lines.

Ausbildungsbataillon, in der 10. und 15. Polizei-Panzerkompanie und bei der 24. Waffen-SS Gebirgs-(Karstjäger-) Division. Beim Südlichen Panzer-Ausbildungsbataillon lernten die Einheiten den Umgang mit erbeuteten Italienischen Panzern, sie hatten fünf P40 im Inventar. Die 10. Polizei-Panzerkompanie diente in Russland, ehe sie 1944 nach Norditalien zu Anti-Partisanen-Einsätzen zusammen mit der 15. Polizei-Panzerkompanie zurückverlegt wurde. Die im Sommer 1944 gebildete 24. Gebirgsdivision wurde längs der Adria-Küste zwischen Triest und Udine verteilt. Beim Rückzug Richtung Österreich im März 1945 verloren sie etliche P40 Panzer durch Sherman der 6. Britischen Panzerdivision. Etwa 100 P40 Panzer wurden vom Deutschen Heer genutzt, wovon ca. 40 ohne Motor als feste Geschützstände an Verteidigungspunkten wie der Gustav- oder

chars terminés au Bataillon d'Entraînement de Chars Sud, aux 10ème et 15ème Compagnies de Police Blindées et à la 24ème Waffen-SS Gebirgs-Division (Karstjäger). Le Bataillon d'Entraînement Sud formait les unités à utiliser du matériel italien et comptait cinq P40 en dotation. La 10ème Compagnie de Police servit en Russie avant son redéploiement en Italie du Nord fin 1944 pour combattre les partisans aux côtés de la 15ème Compagnie. Formée à l'été 1944, la 24ème Gebirgs-Division était basée à Trieste et Udine sur la côte Adriatique. Se repliant vers l'Autriche en mars 1945, elle perdit plusieurs P40 face aux Sherman de la 6ème Division Blindée Britannique. Environ 100 P40 furent utilisés par les allemands, dont une quarantaine sans moteur installés comme fortins défensifs sur les lignes Gustav et Gothique.

Military Model Reservation Items



[USS Tarawa HA-1 \(Planes\)](#)  
Dragon  
1/700  
3,570 yen



[Austro-Hungarian Navy k.u.k.](#)  
Trumpeter  
1/350  
8,330 yen



[Italian Heavy Cruiser Gori](#)  
Trumpeter  
1/350  
10,030 yen



[J.A.S.D.F Transporter Kawasaki](#)  
Aoshima  
1/144  
Airplane, ...  
4,420 yen



[BMD-4M Airborne Infantry](#)  
Trumpeter  
1/35  
6,630 yen



[3M54 Club-k in 20-Footer](#)  
Trumpeter  
1/35  
4,505 yen



[Mitsubishi F-2A](#)  
Hasegawa  
1/72  
2,465 yen



[Diesel Locomotive DD51 J](#)  
Aoshima  
1/45  
Train Mus...  
12,580 yen



[Kawasaki EC-1 Electronic](#)  
Hasegawa  
1/200  
2,890 yen



[Grumman TBF-1 Avenger](#)  
Sword  
1/72  
2,550 yen